

水道局の災害対策の取組状況について

1 飲料水を確保する「自助」「共助」「公助」の促進


東日本大震災の経験を踏まえ、自ら災害に備える「自助」、地域で助け合う「共助」、水道の業務継続としての「公助」について、それぞれの観点から取組を強化

市民の皆さまの備え


自助
1人3日分
9リットルの
飲料水備蓄

1 H24.1月
広報よこはま特別号
「よこはまの水」発行
自助：9リットルの備蓄


2 H24.1月
はまっ子どうしThe Water
ひとり9リットルセット
5,500箱完売
H24.5.7から3,000箱
を追加で販売再開



3 通年
地域における防災訓練
H23年度実績
訓練回数：179回
参加人数：30,640人



4 H24.3月
水道局ウェブサイトに応急給水拠点
検索システム(スイスイまっぷ)を公開
「スイスイまっぷ」
画面イメージ



共助
地下給水タンク等
による地域での
飲料水確保

共助：地下給水タンクの
設置場所をPR

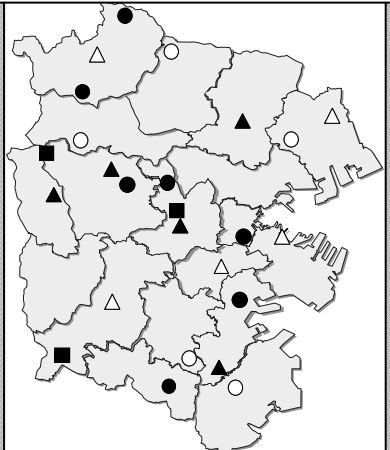


水道局の備え

5 H24.3月
(社)横浜建設業協会と協定締結
→水道復旧の協力体制強化

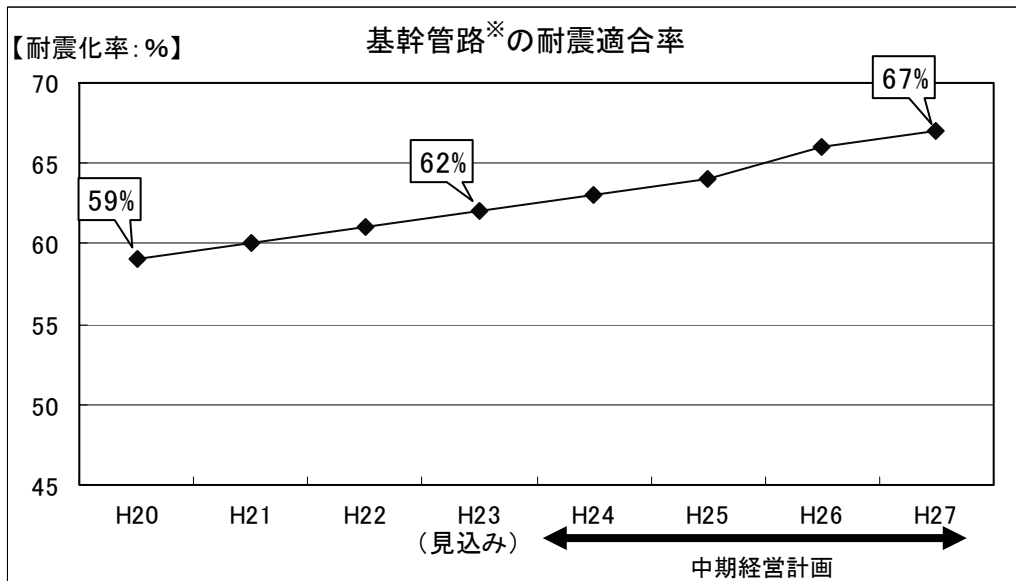
6 H24以降
主要な水道施設・庁舎等に
非常用発電設備を整備
【整備状況・今後の整備予定】
・H24.3現在 19か所(整備済)
・H24年度 → 1か所整備(本庁)
・H25年度以降→9か所整備予定
(庁舎4か所、ポンプ場5か所)

<非常用発電整備状況>(市内分)
H24.3現在整備済
●：ポンプ場 ▲：庁舎 ■：浄水場
(このほか市外に4か所整備)
H24以降整備予定⇒
○：ポンプ場 △：庁舎

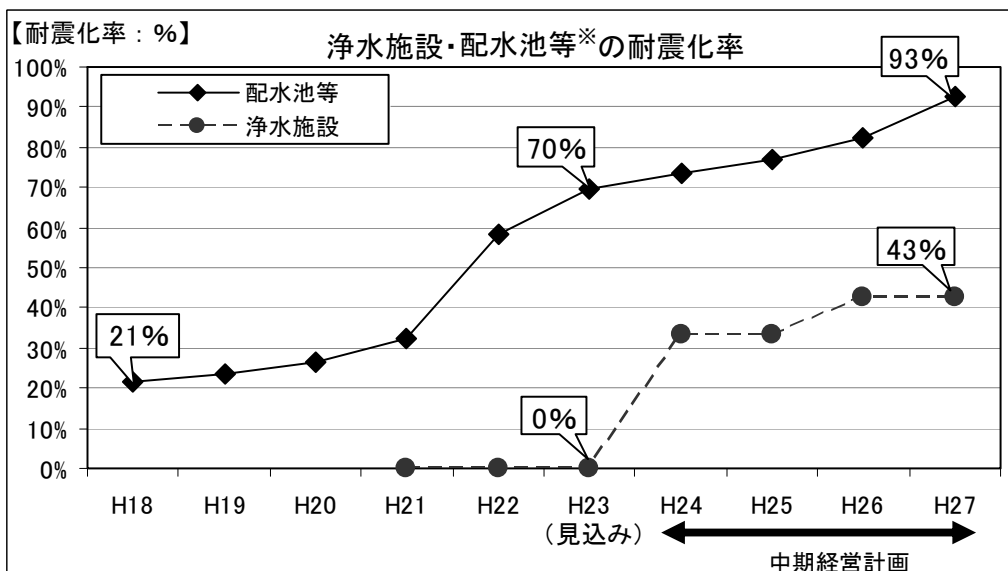
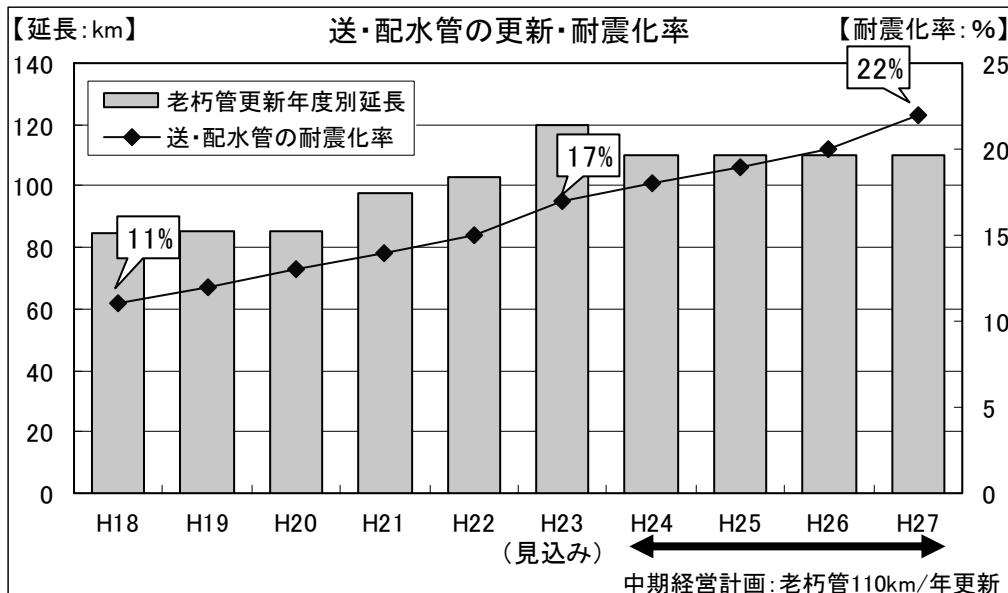


公助
業務継続に向けた
取組強化

2 管路、浄水施設・配水池等の更新・耐震化状況



※基幹管路：導水管、送水管、配水本管（口径 400mm 以上）

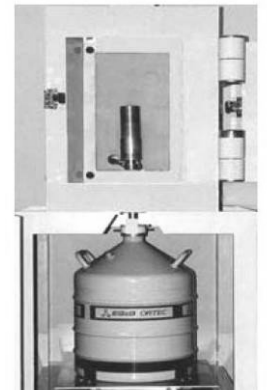


※配水池等：配水池、配水槽及び災害用地下給水タンク

3 放射性物質への対応

	従来	H24.4月以降
セシウム134・137 基準値	暫定基準値 200Bq/kg以下	管理目標値 10Bq/kg以下
測定機器	NaIシンチレーション 検出器	ゲルマニウム 半導体検出器
検出限界値	約10Bq/kg以下	約1Bq/kg以下

現在は神奈川県内広域水道企業団及び横浜市衛生研究所で測定。
H24.6月以降は横浜市水道局に検査機器を導入し測定予定。



ゲルマニウム
半導体検出器

4 被災地の支援状況

平成23年3月～4月 4県5市で、発災直後の応急給水・応急復旧
○平成23年8月以降 宮城県3市町で、水質検査、災害認定、料金収納等の復旧・復興支援

